「保健室の先生もつらいよ」

ペンネーム　藤田南

皆さんは、子どもの頃、学生時代に「保健室」へ行った経験はあるだろうか。保健室と言えば、ケガをした時、体調の悪いときに行く場所というイメージがある人も多いのではないだろうか。昔、メインは体を診ることだった保健室も、今では心の悩みの相談室としての機能も大きい。保健室には、日々ケガをした子、体調が悪い子、心の調子が良くない子、さらには、悩みや愚痴を抱えた先生たちもやってくる。そんな時、私は叫びたくなる。「私もつらいよ。」と。

私は保健室の先生をしている。子どもたちの心の支えになりたいと思って就いた職業。沢山勉強もして、苦労して正規採用になり、講師時代も含めると、もう１０年目になる。１０年ひと昔とは言うが、よく続いたものだ。かといって、純粋に保健室の先生になりたかったわけではない。保育士、高齢者の方と関わる仕事、ケーキ屋、パン屋、他にもなりたかったものがある。しかし、大学時代、何をしたいか分からなくなった、絶賛モラトリアム中、そして厳しい親だったこともあり、なんやかんやで今に至る。

さて、そんな私は日々、心に不満も溜まれば、ストレスも溜まる。そんな中、夢兼趣味で「カフェ巡り」「料理教室通い」をしている。雰囲気の落ち着いたカフェで本を読み、軽食やコーヒーとデザートを楽しむ時間は、極上の幸せな時間である。そこで心を癒しながら、料理教室でもパンやケーキ作りをストレス発散と同時に学び、「将来はカフェを開く」と、夢を持ちながら、今の仕事をがんばれている。今の仕事にやりがいを感じる時もある。でも「私もつらいよ。」と叫びたいときもある。そんな時、「男はつらいよ」の寅さんの言葉を思い出す。「生まれてきてよかったなと思うことが何べんかあるんじゃない、そのために人間生きてんじゃねぇのか」と。私もいつか、寅さんのように、ふうてんな日々を送りたい、送るぞと夢を見ている、日日是好日と思う日々である。